

校訓	盡己	令和6年度学校通信 「松中だより」 第10号	発行日	令和6年8月29日
教育目標	未来を創造し、たくましく生きる生徒の育成 ～地域・家庭とのつながりによる レジリエントな学校を目指して～		発行者	伊丹市立松崎中学校 校長 今井 克己

## 【2学期が始まりました。(始業式式辞)】

夏休みが終わりました。みなさんどんな夏休みでしたか？ 7月26日から8月11日まで、パリオリンピックが開催され、連日日本選手の活躍が報道されました。みなさんはどんなシーンやアスリートの言葉が印象に残っていますか？メダルをとった選手たちも素晴らしかったですが、私自身は競泳100mバタフライ準決勝で敗退した池江璃花子選手が心に残りました。

池江選手は11個の日本記録をもつトップスイマーですが、2019年に血液のがんといわれる白血病を発症し、10ヶ月の入院のち、見事に復帰し、2021年東京オリンピック、今年のパリオリンピックに出場しました。これだけで池江選手がどれだけ努力してきたかが分かります。

準決勝敗退後、15秒ほど絶句した後、池江選手は「ここまでの努力は何だったんだろうと思うし、頑張ってきた意味はあったのかなと、そんな気持ちでいっぱい。自分なりに一生懸命やってきたつもりだったが何も変わってなかった。本当にいつまで苦しまなければいけないんだろうと思う」と絞り出すように話しました。

「努力は必ず報われる」と言われますが、これは本当でしょうか？ 残念ながら努力をした人が必ず金メダルを取れるか、大成功できるかという、そうではありません。しかし、金メダルや大会の優勝など、夢のまた夢と言われるようなことに向かって努力を続けることは、無駄で愚かなことでしょうか？

心理学の研究によると、人は目標を達成して幸せになるのではなく、目標に向かうことによって幸せになるそうです。また、熱中できる活動を持っている人の幸福感も高くなるそうです。実際、目標とした大会に行けなかったけれど、レギュラーにはなれなかったけれど、素晴らしい部活動の体験をした人も、みなさんの中にはたくさんいると思います。

つらくて、無気力になることもあるかもしれませんが、  
「目標をしっかり持って努力すれば、報われる」ということを感じる力を  
持ち続けてほしいと思います。



池江選手は、インタビューの最後に、「また4年後、リベンジしにもどってきたいなと思う」と話しました。4年後の池江選手の活躍を祈るように応援したいと思います。そして、この2学期、みなさんが、特に3年生のみなさんが、目標をしっかり持ち、自分を信じ、あきらめずに努力し、頑張りぬく姿が、たくさん目にできることを期待しています。頑張ってください。

## 【9月の予定】

- 2日（月）1，2年課題テスト 評議専門委員会
- 7日（土）英語暗誦スピーチコンテスト
- 10日（火）3年実力テスト
- 11日（水）体育大会特別時間割開始
- 20日（金）理科自由研究作品展（～27日）
- 27日（金）①②③体育大会予行
- 30日（火）午後体育大会準備

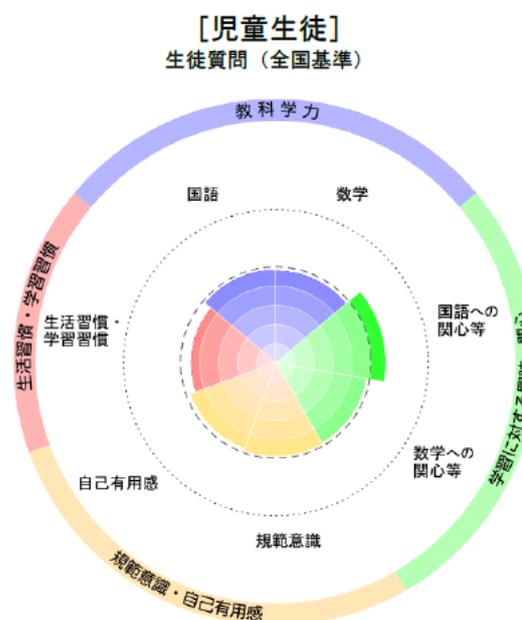


## 【全国学力学習状況調査結果】

4月18日に行われた全国学力・学習状況調査（全国の中学校3年生対象、国語、数学、学習状況調査）の結果が7月の終わりに届きました。

平均正答率(%) 国語	
伊丹市立松崎中学校	56
兵庫県（公立）	58
全国（公立）	58.1

平均正答率(%) 数学	
伊丹市立松崎中学校	49
兵庫県（公立）	55
全国（公立）	52.5



右のチャートは、国語、数学の教科学力と、学習に関する興味関心、規範意識自己有用感、生活習慣・学習習慣を全国平均（点線）を基準にチャートにしたものです。結果の分析や本校の課題と対策については後日お知らせいたします。